

4 保湿のスキンケアによる アトピー性皮膚炎の発症予防効果

The role of application of moisturizer in the prevention of atopic dermatitis development

堀向健太

HORIMUKAI Kenta

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科助教

Summary

アトピー性皮膚炎(AD)は、アレルギーマーチの起点となることが指摘されるようになったが、アレルゲン曝露低減によるAD発症予防策は良い結果を残せていなかった。そのなかで、新生児期からの保湿剤定期塗布によるAD発症予防は有意な効果を示した。さらに、前額部の経皮水分蒸散量(TEWL)がADの発症を予測し、TEWL高値群(=皮膚バリア機能低値を示唆)に対して保湿剤定期塗布が奏効することが示された。一方、ダブルスイッチ数理モデルにより、繰り返される皮膚炎症が非可逆的な病状へとつながり、ADが発症・増悪することが示され、皮膚炎症を早期に予測するバイオマーカーが必要とされている。ADは多様な病態が混在した疾患であり、保湿剤の定期塗布によるバリア機能保護のみでは予防困難な群も存在すると考えられ、アレルギーマーチの進展予防にはさらなる研究が必要である。

経皮水分蒸散量(TEWL)

皮膚のバリア機能は主に角質層に依存しており、角質層から蒸散する水分量である経皮水分蒸散量(transdermal water loss; TEWL)は、皮膚バリア機能を反映する。

プロアクティブ療法

アトピー性皮膚炎に対し、治療初期に抗炎症外用薬を連日塗布し症状を安定させたあと、間歇的に抗炎症薬を塗布しながらsubclinicalな炎症を軽減し、保湿剤を中心とした治療にランディングする治療法を指す。

KEY WORDS

保湿剤／スキンケア／アトピー性皮膚炎発症予防／経皮水分蒸散量(TEWL)／プロアクティブ療法